

登録コード	E8401301	開講年度	2026		
授業科目	理科教育演習 B				担当教員 植原 俊晴
英文授業名	Seminar in Science Education				副担当
単位数	1	講義期間	後期(集中)	曜日・時限	集中・不定期
講義室		授業形態	演習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	該当				
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】
	2 6 E カリ, 2 5 E カリ, 2 4 E カリ, 2 3 E カリ, 2 2 E カリ, 2 1 E カリ, 2 0 E カリ				
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				理科の授業を分析することで、絶えず授業改善に努めることができる。
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				質的アプローチで理科の授業を捉え、評価することができる。
(2)授業で学べる「テーマ」	キャリア				
(3)全学横断特別教育プログラム					
(4)授業の概要	・学習活動を質的に分析、解釈したりする力を身につけ、理科の学習活動に関わる理論を考察できるようになることを目指します。				
(5)授業計画	第1回：ガイダンス、質的アプローチについて 第2回：研究手続きについて 第3回：観察の記録 第4回：データの分析 第5回：結果のまとめ方 第6回：概念枠組みの設定について 第7回：サンプリングの方法 第8回：理論生成について 第9回：実験方法について 第10回：インタビューの方法 第11回：文化について 第12回：分析の単位について 第13回：分析に対する考察について 第14回：質的研究の評価、授業アンケート				
(6)成績評価の方法	・小テスト（60％）、授業に関するレポート（40％）を総合的に評価します。 ・得点率による評価基準は、次の通りです。 「秀」90％以上、「優」80-89％、「良」70-79％、「可」60-69％、「不可」60％未満				
(7)成績評価の基準	【小テスト】 授業の内容について深く理解している場合（90％以上）は「卓越している」。概ね内容を理解している場合（89-80％）は「かなり上にある」。内容を理解している場合は（79-70％）「やや上にある」。授業づくりに必要最低限の知識と理解がある場合（69-60％）は「水準にある」です。 【授業に関するレポート】 題意を踏まえて記述できる、具体的に記述できる、根拠を述べることができる、自分の意見を述べるができる、端的にまとめて述べるができる、～のすべてを満たしていれば「かなり上である」、4項目できていれば「やや上である」、3項目できていれば「水準である」です。				
(8)事前事後学習の内容	・この授業は45時間の学修を必要とする内容です。したがって、30時間以上の時間外学修が必要です。				
(9)履修上の注意	・すべての授業に出席してください。ゼミ型式で進めます。 ・児童生徒の実態を基に理科教育研究を進めるみなさんは、この授業を必ず受講してください。				
(10)質問、相談への対応及び連絡先	【質問・相談の対応】 在室のときはいつでも。研究室は西校舎3階315室です。 【連絡先】 メール：t_uehara@shinshu-u.ac.jp 電話：026-238-4118				
【教科書】	・資料を配布します。				
【参考文献】	・教育研究のための質的研究法講座，2013，北大路書房，2,800円（税別）． ・随時，その他も紹介します。				